

1 日時 平成22年10月22日(金) 9時30分～12時

2 会場 さいたま市立中央図書館 イベントホール

3 出席者

委員(学識経験者)

佐々木寧会長、堂本泰章副会長、磯田洋二委員、小茂田美保委員、鷺谷いづみ委員、藤野毅委員

委員(行政関係者)

三橋さゆり委員、津田賢一委員、元井典雄委員、吉川昇男委員、鯉沼貢委員

助言・指導者等

文化庁記念物課文化財調査官[天然記念物担当] 本間暁、埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課主事[指定文化財保護担当] 須田大樹

事務局

小野安史生涯学習部長、小倉均文化財保護課長、野尻靖文化財保護課副参事兼文化財保護係長、文化財保護係渡辺主査

4 議事

(1) 議題

「田島ケ原サクラソウ自生地」保存管理計画策定のための工程について

「田島ケ原サクラソウ自生地」の現状と課題について

5 公開・非公開の別 公開

6 傍聴人の数 0人

7 議事内容 下記のとおり

## 記

1 議事事項

(1) 「田島ケ原サクラソウ自生地」保存管理計画策定のための工程について

事務局(野尻靖文化財保護課副参事兼文化財保護係長)より、資料を元に下記の内容で説明。

各年度の工程

「田島ケ原サクラソウ自生地」保存管理計画策定委員会全体の流れ

保存管理計画策定へ向けて(検討内容案、方向性の提示)

田島ケ原サクラソウ自生地保護増殖検討委員会(平成12年度)の提言の説明

平成22年度現在の課題と田島ケ原サクラソウ自生地保護増殖検討委員会提言を比較及び緊急性の課題について

(2) 「田島ケ原サクラソウ自生地」の現状と課題について

磯田洋二委員より、「田島ケ原サクラソウ自生地」乾燥化について、下記の内容で別冊資料を元に説明。

「田島ケ原サクラソウ自生地」の地下水位の変動

「田島ケ原サクラソウ自生地」の地表水の変動

公園化による環境の変化

自生地植物について、過去と現在の内容を比較・検討

水環境の変化による乾燥化

## 2 意見

火入れは、とても重要であり、人為的な維持管理を行っていくべき。(礒田委員・鷺谷委員)

サクラソウは遷移の最初に現れる植物なので、人為的に現在の植物を破壊する必要があることが過去の様子から伺える。(礒田委員)

地下水の変動について、元に戻すことは出来ない。現状でどのような湿地なら適しているのか、議論を進めていきたい。(佐々木会長)

地下水と表面水の利用が重要。以前は、年に数回水が入ってきていたが、現在は、洪水は期待できない。また、水の養分(窒素リン等)が過去とは違う。富栄養化等様々な問題がある。(佐々木会長・鷺谷委員・三橋委員)

過去の対策(スプリンクラー設置や増殖等)の評価や、効果・成果等必要なことの位置づけが必要。(佐々木会長・鷺谷委員)

火入れは、観光資源になる。このような文化財保全活動の市民参加も重要である。(鷺谷委員)

ボランティア活動の継続は重要。(佐々木会長)

公園機能とサクラソウ保護の両立は難しい。(礒田委員)

計画的に種子の人工授粉を行いたい。(鷺谷委員)

計画を実施するにあたり、どのくらい予算あるのか。財政側との打ち合わせが必要である。(吉川委員)

どのような湿地状態が望ましいのかを考える。(佐々木会長・礒田委員・鷺谷委員)

## 3 質問・回答

質問 保存管理計画の最終目的を何にするのか。(鷺谷委員)

回答 管理の目標としては、天然記念物に指定された当時の植生に近づけるようにしたい。(礒田委員)

質問 土壌バンクの実施はできないか。(鷺谷委員)

回答 戦中の食糧難で、自生地の三分の二を開墾したので、開墾した部分は期待できない。(礒田委員)

質問 表層付近の土壌水分や土の状態はどのようになっているのか。(藤野委員)

回答 およそ土壌水分20%から25%位であるが、地下には荒木田土が堆積しており、水の通りがよいため、保水力は余りない。(礒田委員)

質問 温暖化の影響は出てきているのか。(佐々木会長)

回答 競争植物のノウルシの生育状況が良いため、温暖化の影響が伺える。(礒田委員)

質問 荒木田土掘削箇所の植生はどのようになっているのか。(佐々木会長)

回答 掘削後、4年間は、何も生えない状態だった。その後、最初にシダ植物が入り、数年前の洪水により色々な植物が入ってきたが、サクラソウは入ってこなかった。この箇所は、人為的にサクラソウを植え、現在、繁殖しており、オギヨシ群落になっている。(礒田委員)

質問 外来植物の抜き取りの必要性、効果、予算・人数、今後の実施について。(佐々木会長・鷺谷委員)

回答 外来植物以外も抜き取りを行っている。(資料別冊7P参照)人為的な関与を行う必要性はある。中止

すると、サクラソウの生育に影響が出るので、続けなければいけない。(磯田委員)

臨時職員が手で抜いて行っているので、賃金として200～300万円位の予算。延べ人数六人。ひと月に15日位で、半年間雇用。(事務局)

質問 制御(除去)植物の火入れの影響についてと、火入れの年度について。(小茂田委員・佐々木会長)

回答 火入れとの関係を明確に出来ない。(磯田委員)

火入れは、2008年の1月から実施。(事務局)

質問 減少した植物の繁殖の成果について。(佐々木会長)

回答 資料別冊P8の通り。減少する植物を、今後どのように保存していくかが検討課題。(磯田委員)

質問 これら作業の管理計画は、教育委員会が行うのか。磯田委員が個人で、計画作成を行うのか。(佐々木会長)

回答 細かい管理計画は磯田が考えていますが、観察路維持管理や蜂の駆除等、文化財保護課と共同で実施しており、事業としては教育委員会で行っています。(磯田委員)

質問 過去の火入れの実施状況、今後の予定について。(佐々木会長)

回答 資料別冊P10の通り。火入れと刈払いをしないとサクラソウの維持は出来ない。周辺住民からの煙や灰等の苦情が多いが、火入れは欠かせない。(磯田委員)

今後も、火入れと刈払いを両方行うことが望ましい。(鷲谷委員)

質問 ボランティアの詳細は。(佐々木会長)

回答 ボランティア団体「サクラソウ自生地を守る会」は現在50人参加している。自生地管理や観覧者案内等を行っている。年齢は、50歳台から70歳台。(磯田委員)

質問 増殖計画の内容は。(佐々木会長)

回答 平成8年度に自生地の種を用いて苗を育て、第二自生地をいくつか区切り、100株ずつ植えました。増えているところと、減っている箇所があります。今後どのようにしたらよいか検討課題。(磯田委員)

質問 土地について、常に湿性でなくても乾燥と湿性が交互になるような土地ではダメなのか。(元井委員)

回答 湿地が植物にどのように影響するかが重要。雨水を長く保水できるようにしたい。(磯田委員)

#### 4 その他

次回は主に水問題について議論し、湿地環境にするための課題、望ましい湿地の姿について対策等を考える。その後、管理をどうするかを考えていきたい。(佐々木会長)

これをもって、審議を終了した。